

大腸がんについて

小樽掖済会病院

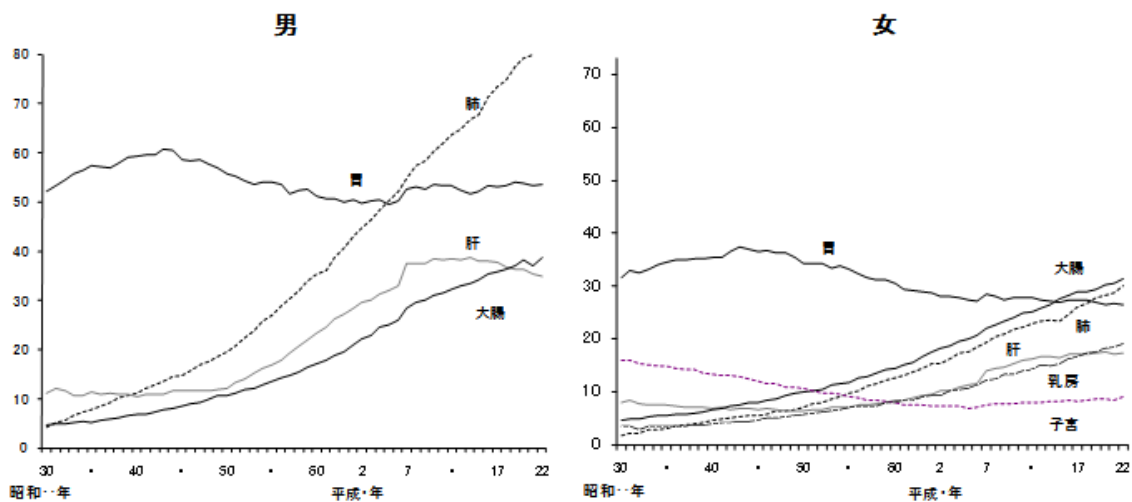
外科医長 田山 誠

はじめに

日本人の死因の第一位は悪性新生物です。悪性新生物による死亡数は年々増加しており、2012年の調査では全体の28.5%とおよそ3人に1人ががんで亡くなっています。悪性新生物の発生部位としては、男性では肺がんが最も多く、次いで胃がん、大腸がんの順であり、女性では大腸がんが第一位を占めています（図1）。また、男女共に大腸がんは増加傾向にあり、大腸がんの罹患数（新たに大腸がんになった患者数）は毎年10万人を超えています。

大腸がん増加の原因としては、平均寿命の高齢化や食習慣の欧米化によると考えられています。

図 1



大腸がんの発生

大腸がんは肛門に近い大腸に発生しやすく S 状結腸、直腸の順に多く約 7 割を占めています（図 2）。大腸がんは大腸表面の粘膜から発生します。粘膜から直接がんが発生する場合がありますが、多くは腺腫（ポリープ）の一部にがんが発生し増大していきます。がんは増殖を続け、粘膜下層、さらに筋層へと広がっていきます（図 3）。粘膜下層までにとどまるものが早期がん、筋層より深くまで広がったものが進行がんです。更に進行が進むと周囲のリンパ節への転移や肝臓や肺

などの他臓器への転移、がん細胞がお腹の中に散らばる腹膜播種などを起こします。

図 2

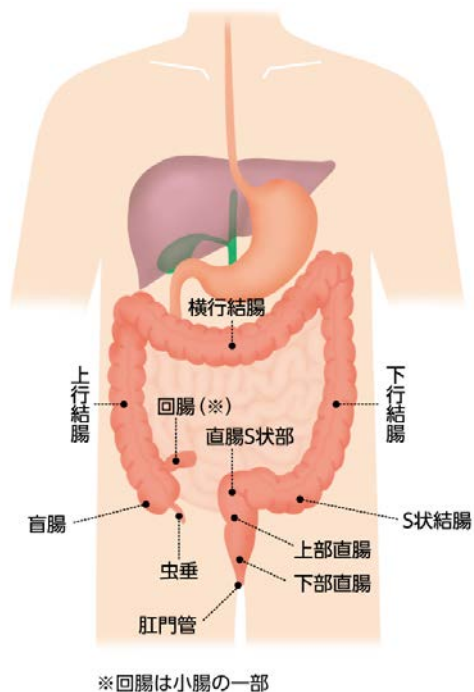
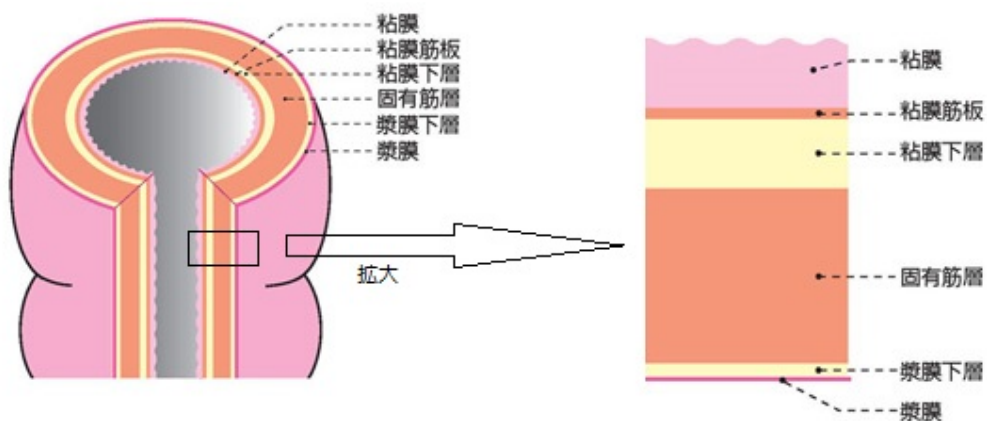


図 3



大腸がんの症状

早期の大腸がんでは症状はほとんどありません。便潜血検査などの検診で結果が陽性となり、その後の精密検査によって偶然に発見されることが多いものです。

一方、進行がんになるとがん表面からの出血による下血や黒色便、がんによって大腸内が狭くなってしまい便が細くなったりお腹が張ってきたりといった症状を起こすこともあります。また、がんが増大し腹部にしこりを触れたり、栄養障害による体重減少も起こします。

大腸がんの治療

大腸がんの治療は切除が基本となります。早期がんでは内視鏡的切除も可能な場合があります。内視鏡での切除が困難な場合や進行がんの場合は手術となります。抗がん剤治療は手術の補助として用いられますが、抗がん剤のみで完治することは困難です。

大腸がんの手術

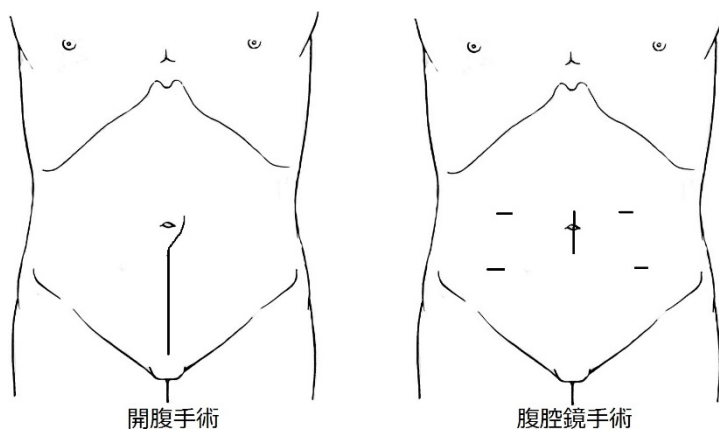
手術ではがんを含めて腸管とその周囲にあるリンパ節を同時に切り取ります。おなかを 15cm 前後切開して腹腔内を開放し、腸管に直接接触しながら操作を行います。これを開腹手術といいます。がんのひろがりや直に確かめることができ、血管の処理や剥離を確実に行うことができます。

最近では炭酸ガスでおなかを膨らませ、小さな創からカメラを入れてモニターで腹腔内を観察しながら、特別な器具を操作して血管の処理や剥離を行う手術法が増えてきています。これを腹腔鏡手術といいます。この方法が 1990 年代から大腸がん手術に取り入れられ、広く行われるようになってきました。

開腹手術と腹腔鏡手術とで一番違う点は、おなかの創の長さです。

腹腔鏡手術では、1cm 程度の切開を数箇所におくだけで腹腔内の処置を行うことができます。腸管を体外に出すために最終的には 4~5cm の小切開は必要ですが、開腹手術に比べて創が目立たなく、術後の痛みも軽く、腸管運動の回復も早く、長期的にみても創が短い分、癒着を起こしにくいと考えられています (図 4)。

図 4



腹腔鏡手術の問題点としては、腹腔鏡手術が開腹手術に比べて難易度が高いということです。時間も開腹手術とくらべて、1～2時間ほど長くかかります。

全ての大腸がん患者に腹腔鏡手術が可能なわけではありません。拡張した腸管のため手術するスペースを確保できない腸閉塞の場合や腹膜炎などで緊急的な手術が必要となる場合、腹腔鏡手術による手術時間の延長に耐えられないと予想される心肺機能が悪い患者などは基本的に開腹手術になります。

また、大腸がんの場所や周りの臓器への浸潤で腹腔鏡手術が困難と予想される場合、以前に何度も手術をして癒着が強い場合などでは途中で腹腔鏡手術から開腹手術へ移行することがあります。

大腸がんの予後

大腸がんは肉眼的にがんを全て取り除いたと考える根治度 A 手術を 90% 近くの患者に対して行うことができます。根治度 A 手術を受けた患者の 5 年生存率は 80% 以上と他のがんに比べ良好な結果が得られています。大腸がんは早期に発見すれば、内視鏡的切除や外科手術により完全に治すことができます。従って、定期的な大腸がん検診が有効です。

小樽掖済会病院

〒047-0031

小樽市色内1-10-17

TEL:0134 (24) 0325

FAX:0134 (25) 3408

URL:<http://www.otaru-ekisaikai.jp>